

施設一体型小中一貫教育校施設整備の基本的な考え方

小中一貫教育を推進する学校施設について

笠岡市の「小中一貫教育推進基本計画」において、小中一貫教育を推進する学校施設の基本姿勢として、次の3つの項目を掲げている。

- ① 義務教育9年間を見通した教育課程
3つの視点 「学びの連続性」「育ちの連続性」「教育環境の連続性」
- ② 小・中学校教職員の共通認識と育成・指導の連携・協働
- ③ 学校・保護者・地域の一体となった取組

目指す学校の姿について

笠岡市の「教育振興基本計画」に掲げる学校教育の「基本方針」及び「小中一貫教育推進基本計画」に掲げる基本姿勢を実現し、その教育効果を高める学校の実現のため、次の3つの学校の姿を目指して整備する。

- ① 学びに向かう子供たちを支える学校
- ② 安全・安心・快適で、温もりを感じながら過ごせる学校
- ③ 地域と一体となって子供たちの成長を支える学校

小中一貫教育の推進に対応した学校施設整備について

小中一貫教育を推進する学校施設の整備にあたっては、その効果をより高めるため、国の「学校設置基準」及び「学校施設整備指針」を踏まえるとともに、次の基本方針に基づき、より良い学校づくりを目指す。

【基本方針】

- ① 義務教育9年間の一貫した教育課程（活動）を支える環境
- ② 義務教育9年間の一貫した学校運営を支える環境
- ③ 保護者や地域と一体となって子供たちの学びを支える環境
- ④ 将来変化に柔軟に対応し、高機能で多様な学習を支える環境
- ⑤ 安全安心で、子供たちの豊かな学校生活を支える環境
- ⑥ 既存施設の有効活用と新設施設が調和した環境

【検討事項】

- ① 義務教育9年間の一貫した教育課程（活動）を支える環境

- 教科担任制や相互乗り入れ授業等に対応する。
- 児童生徒の発達段階や学習内容に応じたゾーニングに配慮する。
- 共同（合同）授業などによる異学年交流、学校間交流に対応する。
- 特色ある教育課程（地域学など）の展開に対応する。
- 特別支援教育の充実に対応する。
- ICT機器の活用に対応する。

② 義務教育 9 年間の一貫した学校運営を支える環境

- 小・中学校教職員の共通認識と指導の連携・協働に対応する。
- 教職員の指導力の向上を支える。
- 一体的マネジメントを可能とする。

③ 保護者や地域と一体となって子供たちの学びを支える環境

- 学校運営協議会や地域学校協働活動などの子供の学習を支える活動に対応する。
- 地域住民と子供たちの郷土愛を育む交流を支える活動に対応する。

④ 将来の変化に柔軟に対応し、高機能で多様な学習を支える環境

- 将来の児童生徒の増減に対応できる。
- 新しい学習内容や学習形態に対応できる。
- 日々進化する I C T 機器の活用など, 高機能で多機能な学習環境に対応できる。

⑤ 安全安心で、子供たちの豊かな学校生活を支える環境

- 児童生徒の発達段階や利用内容に応じて安全に利用できる。
- インクルーシブ教育に配慮するとともに, すべての人が利用しやすいバリアフリーやユニバーサルデザインを導入する。
- 災害や事件等の緊急時に安全が確保できる。
- 不登校等の教育課題に対応し, 個別に寄り添い安心して生活できる。
- スクールバスの導入に際して, 利用時の安全性が確保できる。

⑥ 既存施設の有効活用と新施設が調和した環境

- 既存施設の課題を把握し, 効果的に小中一貫教育が推進できる施設に転換する。
- 既存施設の機能を把握し, 必要な施設の設備を整備し, 既存施設と新施設の一体化と調和を図る。